

トヨタ 2000GT

TOYOTA 2000GT

見る者を魅了する流麗なフォルム。
日本車史上、もっとも美しいスタイル。

7



今なお語り継がれる伝説のグランドツーリングカーを再現！

1:10 SCALE

全長 417mm

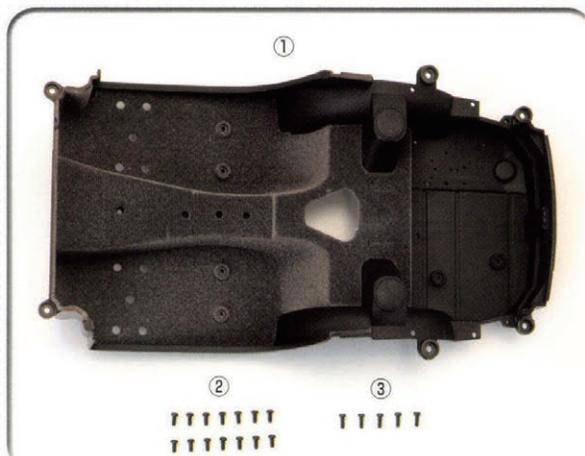
 DeAGOSTINI

30号

キャビンフロアに センターコンソールを取り付ける

今号では、モデルの内装となる「キャビンフロア」を提供する。これまでに組み立て、保管しておいたパーツを取り付ける作業なので、必要なパーツの状態をしっかりと確認しておこう。なお、キャビンフロアには特殊な植毛処理が施されており、強くこすると植毛部分が抜け落ちたり、はがれる恐れがある。作業中の取り扱いには十分に注意しよう。

今号のパーツ



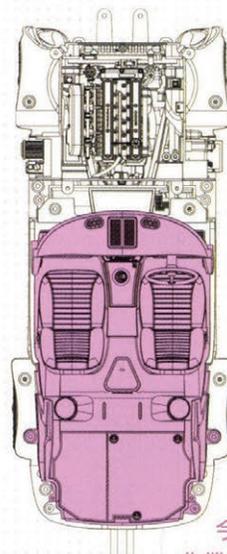
- ①キャビンフロア×1
- ②ビス(Hタイプ)×14(*1本は予備)
- ③ビス(Jタイプ)×5(*1本は予備)

使用する道具

- ・プラスドライバー(1番)

用意するもの

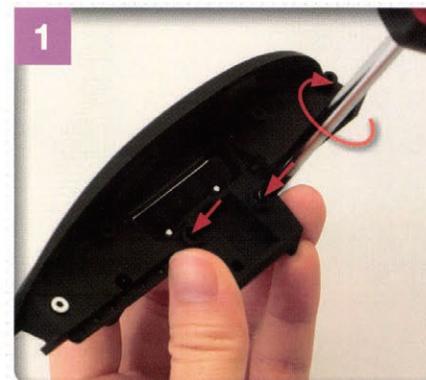
- ・運転席シート(3号で組み立てたもの)
- ・助手席シート(8号で組み立てたもの)
- ・インストルメントパネル(26号で組み立てたもの)
- ・カーテシボックス(27号で組み立てたもの)
- ・センターコンソール(29号で組み立てたもの)
- ・シフトコンソールプレート(29号で提供したもの)
- ・シフトコンソールパネル(29号で提供したもの)
- ・シフトレバーベース(29号で提供したもの)
- ・シフトレバーカバー(29号で提供したもの)
- ・シフトレバー(29号で提供したもの)
- ・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)



今号で
作業する箇所



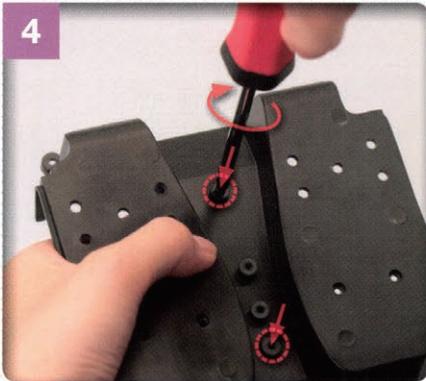
①キャビンフロアと29号で組み立てたセンターコンソールを用意し、写真で示した取り付け穴にセットする。



26号で組み立てたインストルメントパネルを用意する。次に、写真で示した裏側のビス穴2カ所に②ビス(Hタイプ)をセットし、1番のプラスドライバーでねじ込む。その際、インストルメントパネルにはめ込んであるコンソールパネルが外れないよう押さえて作業しよう。ビスで固定したら、次回の作業時までビニール袋に入れて保管しよう。



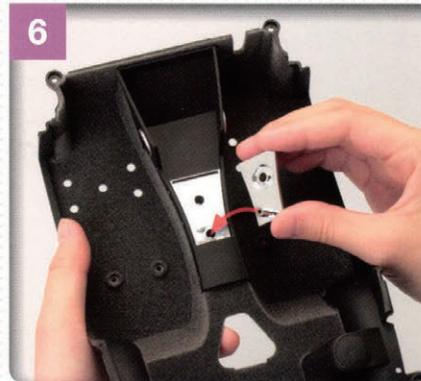
センターコンソールを真っすぐに押し込み、キャビンフロアとの間にすき間ができないようにする。



4
センターコンソールが抜け落ちないように保持したままキャビンフロアを裏返す。次に、写真で示した2カ所のビス穴にHタイプのビスをセットして、1番のプラスドライバーでねじ込み、センターコンソールをキャビンフロアに固定する。



5
29号で提供したシフトコンソールプレートを用意し、写真で示した位置にセットする。なお、シフトコンソールプレートは写真のように“くぼんでいる面”を上向きにする。



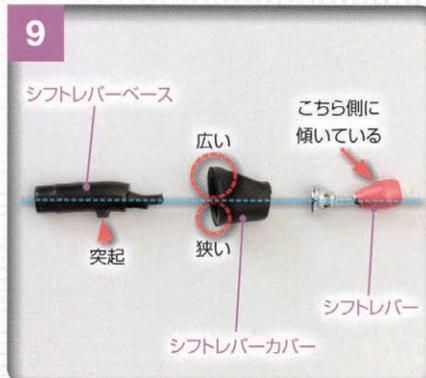
6
次に29号で提供したシフトコンソールパネルを用意し、5でセットしたシフトコンソールプレートにかぶせるようにセットする。



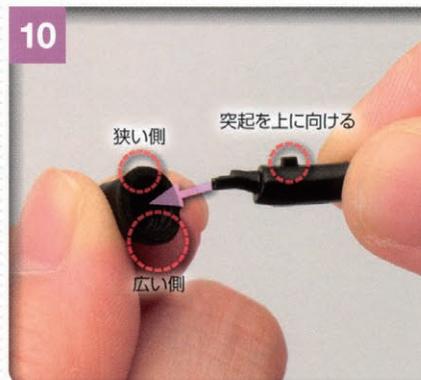
7
シフトコンソールパネルを軽く押さえ、シフトコンソールプレートの内側にはめ込む。なお、シフトコンソールパネル表面の木目模様は傷みやすいので、傷を付けないよう注意しよう。



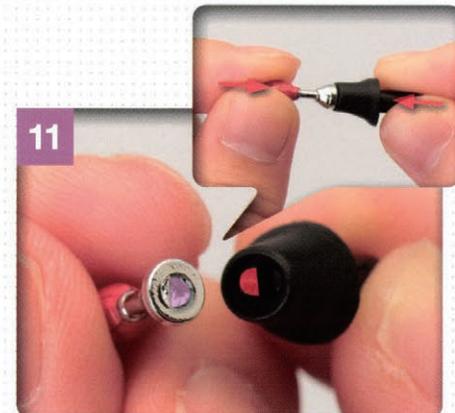
8
シフトコンソールパネルを軽く押さえたままキャビンフロアを裏返す。次に、写真で示したビス穴にHタイプのビスをセットして、1番のプラスドライバーでねじ込む。これでシフトコンソールパネル&プレートは固定された。



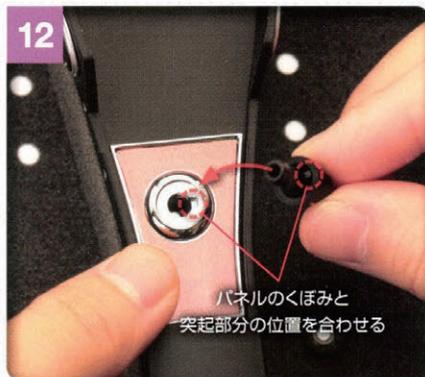
9
29号で提供したシフトレバーベース、シフトレバーカバー、シフトレバーの3つを写真のように並べ、形状をしっかりと確認しておく。シフトレバーカバーとシフトレバーの“傾き加減”が作業のポイントになる。



10
シフトレバーベースとシフトレバーカバーを用意し、写真を参照しながらしっかり奥まで差し込む。



11
次に、シフトレバーカバーから突き出したシフトレバーベースの先端を、シフトレバー後端の取り付け穴にセットする。シフトレバーベース先端の取り付けピンとシフトレバーの取り付け穴は「D字形」になっているので、穴の向きを合わせてセットし、真っすぐに押し込もう。パーツの軸部分が細く破損しやすいので、慎重に作業すること。



12

パネルのくぼみと突起部分の位置を合わせる

8で組み立てたキャビンフロアを用意し、写真で示したシフトコンソールパネルのくぼみ部分と、11で組み立てたシフトレバーベースの突起部分を合わせてセットする。



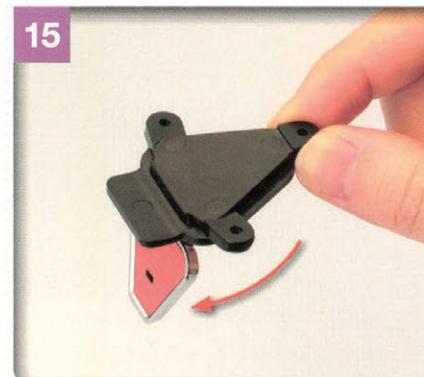
13

シフトレバーをシフトコンソールパネルに差し込む。このとき、12で示したパネルのくぼみに、シフトレバーベースの突起部がはまるよう、軽く押し付けるようにしながら位置を調整する。



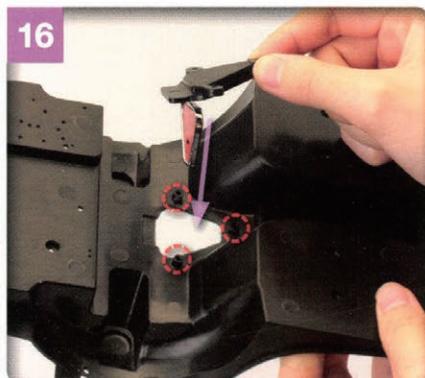
14

シフトレバーが抜け落ちないように保持し、キャビンフロアを裏返す。次に、写真で示したビス穴にHタイプのビスをセットして、1番のプラスドライバーでねじ込む。シフトレバーベースが回らないよう、シフトレバーカバーごと押し付けながら作業しよう。



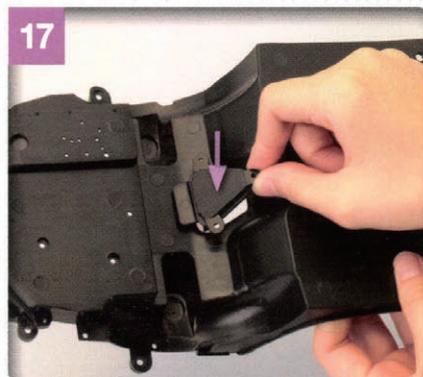
15

27号で組み立てたカーテシボックスを用意し、裏返しにして持つ。ボックスのふた部分が自然と開くはずだが、開かない場合は写真の状態になるよう指先で開いておこう。



16

14で組み立てたキャビンフロアを裏返しにして持ち、中央付近にある三角形の開き口へカーテシボックスを写真のようにセットする。



17

カーテシボックスのふた部分を先に開口部へ通し、続いてキャビンフロア裏側に設けられた3カ所の取り付け部(18の赤丸参照)に、カーテシボックス側の取り付け部をはめ込む。



18

カーテシボックス側の取り付け部を真っすぐに押し込む。



19

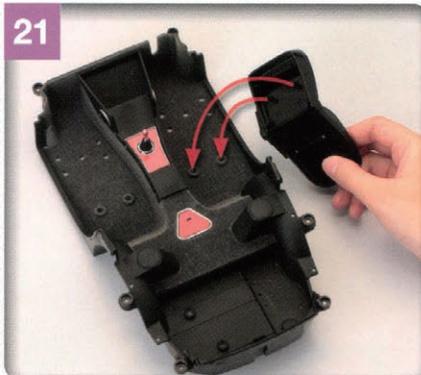
3カ所のビス穴に、Hタイプのビスをセットする。

20



1番のプラスドライバーを使い、Hタイプのビスをねじ込む。3カ所を少しずつ、順番にねじ込むようにするとよい。

21



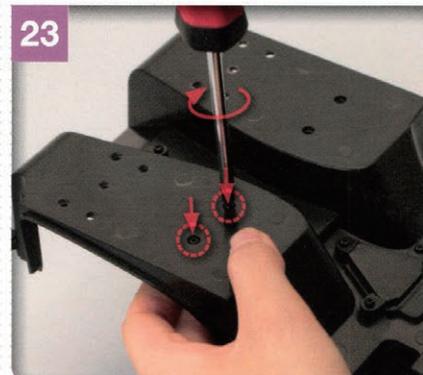
3号で組み立てた運転席シートを用意し、キャビンフロアの写真で示した位置にセットする。助手席シートと形状が似ているので、間違えないよう注意しよう。

22



シート裏のポスト部と、キャビンフロア側の取り付け部がはまるよう位置を調整し、軽く押さえておく。

23



運転席シートが外れないよう保持したままキャビンフロアを裏返す。次に、写真で示したビス穴へ③ビス(Jタイプ)2本をセットし、1番のプラスドライバーでねじ込む。

24



8号で組み立てた助手席シートを用意し、キャビンフロアの写真で示した位置にセットする。

25



シート裏のポスト部と、キャビンフロア側の取り付け部がはまるよう位置を調整し、軽く押さえておく。

26



助手席シートが外れないよう保持したままキャビンフロアを裏返す。次に、写真で示したビス穴へJタイプのビス2本をセットし、1番のプラスドライバーでねじ込む。

今号の完成



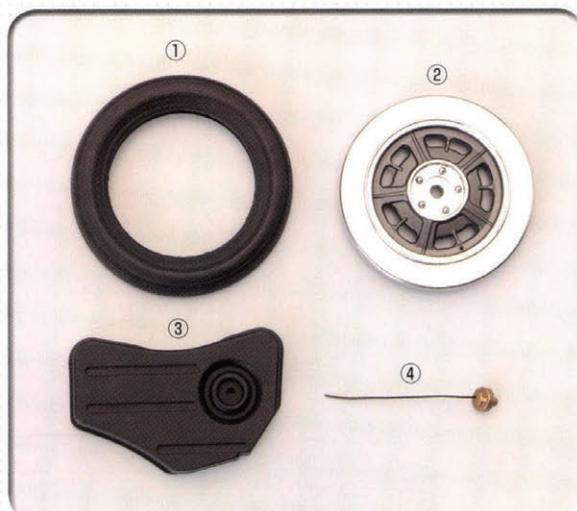
これで今回の作業は完了だ。シートにセンターコンソール、シフトレバーも取り付けられ、内装の雰囲気を楽しめるはずだ。なお、キャビンフロアに施された植毛処理は、強くこするとはがれてしまうので、注意して保管しよう。なお、今回使用しなかったHタイプのビス(4本)は後の号で使用するので、ビニール袋に入れて保管しておこう。

31号

フューエルタンクを 取り付ける

今号では、30号で組み立てたキャビンフロア後方にフューエルタンクを取り付け、スペアタイヤを収納する。スペアタイヤはこれまでに組み立てた前後輪とは異なり、モデル用にアレンジしたハーフタイプを採用した。シャシーフレームへの干渉を抑えながら、実感豊かに再現された仕様を楽しんでもらいたい。

今号のパーツ



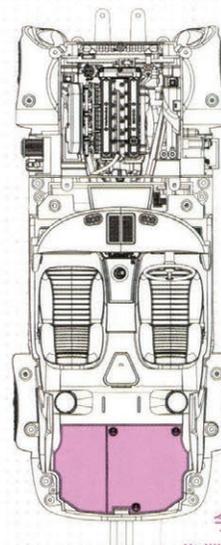
- ①スペアタイヤ×1
- ②スペアタイヤ用ホイール×1
- ③フューエルタンク×1
- ④フューエルセンダゲージ×1

使用する道具

- ・プラスドライバー(1番)
- ・ピンセット
- (2号で提供したもの)

用意するもの

- ・キャビンフロア(30号で組み立てたもの)
- ・ビス(Hタイプ)×2(30号で提供し、保管した4本のうち2本)
- ・セロハンテープ



今号で
作業する箇所



①スペアタイヤと②スペアタイヤ用ホイールを用意し、形状を確認しよう。タイヤは、これまでに組み立てた前後輪を半分にカットした仕様で、裏面は完全にフラットな状態になっている。ホイールもそれに合わせた仕様なので、表面と裏面を確かめておこう。



2 タイヤの表面を
手前に向ける

ホイールの裏面を
手前に向ける

タイヤの表面を手前にして持ち、その内側に“裏面を手前に向けた状態のホイール”をはめ込む。タイヤの縁をめくりながら引っ張り、少しずつホイールにかぶせるようにしてはめ込もう。



3

ホイールの裏面が上を向くように組む

組み立てたスペアタイヤは、写真のようになる。ホイールの“裏面”が上になっていることを確かめよう。



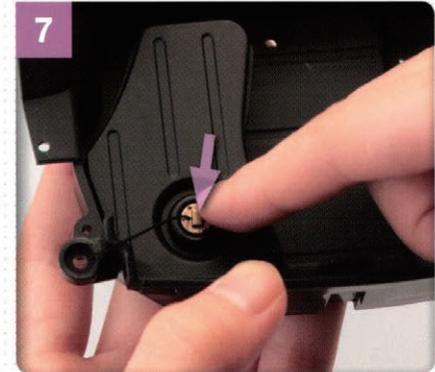
4 30号で組み立てたキャビンフロアを用意し、写真に示した位置に③フューエルタンクをセットする(タンクの向きは写真を参照して確認しよう)。セットしたら真上から軽く押して、フューエルタンク裏側のポストをキャビンフロアの取り付け部にはめ込む。



5 フューエルタンクが抜け落ちないように保持したままキャビンフロアを裏返す。次に、写真で示した2カ所のビス穴へ30号で提供したHタイプのビスをセットし、1番のプラスドライバーでねじ込む。フューエルタンクが動かなくなればOKだ。



6 ④フューエルセンダゲージを用意し、裏側に突き出している取り付けピン(断面が「D字形」になっている)を、写真に示したフューエルタンクの取り付け穴に形状を合わせてセットする。なお、フューエルセンダゲージには非常に細いホースが取り付けられているので、傷めないよう注意しよう。



7 指先でフューエルセンダゲージを押し込んで、フューエルタンクに取り付ける。このとき、フューエルセンダゲージのホースには極力触れないようにしましょう。



8 2号で提供したピンセットを使い、フューエルセンダゲージから伸びているホースの先端を、写真で示したキャビンフロア側の取り付け穴に差し込む。ホースは非常に細く切れやすいので、無理に引っ張らないようにしましょう。



9 キャビンフロアを裏返し、突き出したホースの先端部分を3mmほど折り曲げ、セロハンテープを使って留める。現段階では“仮留め”なので、接着剤は使用しないように。



10 ③で組み立てたスペアタイヤを用意し、フューエルタンクの横、写真の位置に入れておこう。固定はせず、あくまでも一時保管のためだ。

今号の完成



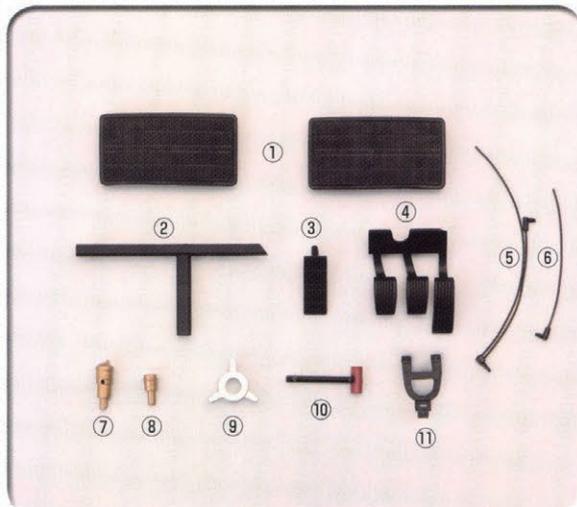
これで今回の作業は完了だ。30号に引き続き、キャビンフロアにパーツが追加されたことで、一段とリアリティが高まった。次回もキャビンフロアの作業を行うので、組み立てたパーツは大切に保管しておこう。

32号

アクセサリ類を取り付ける

今号では、ラゲージスペース内のアクセサリ類、運転席シートと助手席シート前のフロアマットを取り付ける。また、31号で取り付けしたフューエルタンクの脇に、フューエルポンプも取り付ける。このパーツには非常に細いフューエルパイプを付けるので、破損しないよう慎重に取り扱おう。

今号のパーツ



- ①フロアマット×2
- ②スペアタイヤフレーム×1
- ③フットレスト×1
- ④ペダル×1
- ⑤フューエルパイプA×1
- ⑥フューエルパイプB×1
- ⑦フューエルポンプ×1
- ⑧フューエルフィルター×1
- ⑨スペアタイヤナット×1
- ⑩ハンマー×1
- ⑪固定ベルト×1

使用する道具

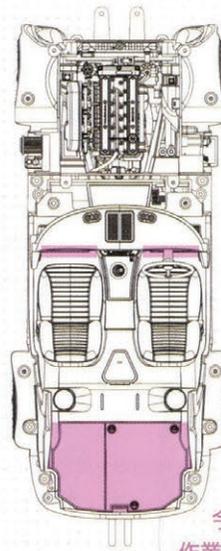
・ピンセット
(2号で提供したもの)

用意するもの

・キャビンフロア
(31号で組み立てたもの)
・セロハンテープ

あると便利なもの

・多用途接着剤
(「セメタイン スーパー-X-G」を推奨)



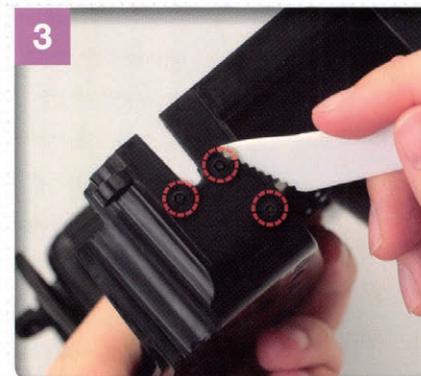
今号で
作業する箇所



31号で組み立てたキャビンフロアを用意し、後部に搭載したスペアタイヤを取り出しておく。次に③フットレストを用意し、写真で示した穴にパーツ裏側の取り付けピンを差し込み、指先で押し込む。



④ペダルを用意し、写真で示した2カ所の取り付け穴にパーツ裏側のピンを差し込み、指先で押し込む。



キャビンフロア内側には植毛処理が施されているため、1と2で取り付けしたパーツが植毛の反発力で押し戻され、抜けやすくなる場合がある。その場合は写真のようにキャビンフロア外側から、取り付けピン先端に多用途接着剤を少量塗布して接着しよう。



4

①フロアマットを用意し、運転席シート前に設けられた5カ所の取り付け穴にセットする。裏面に設けられた取り付けピン部分を押し込み、フロアマットを固定する。植毛処理の反発力で若干浮き上がってしまったとしても問題はない。



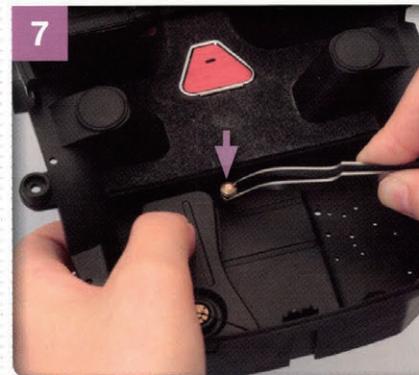
5

④と同じ要領で、助手席シート前にもフロアマットを取り付けよう。



6

⑦フューエルポンプを用意し、写真で示したキャビンフロア後方・フューエルタンクの右上に設けられた取り付け穴にセットする(狭い場所なので2号で提供したピンセットで作業するといい)。取り付け穴の形状は「D字形」になっているので、取り付けピンの形状を合わせてセットしよう。



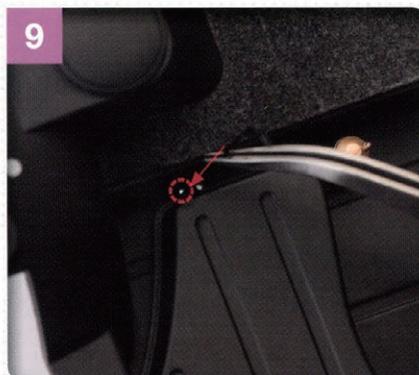
7

フューエルポンプを“真っすぐに立つ程度”まで差し込む。奥まで差し込んでしまうと、以降の作業がしにくくなるので注意しよう。



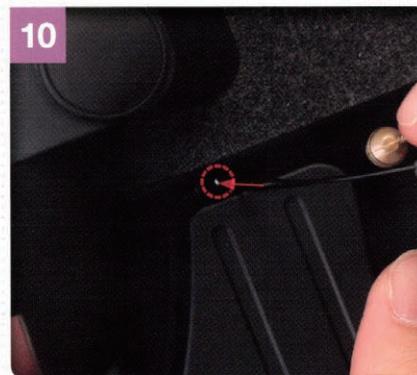
8

次に、フューエルタンクとキャビンフロアの間設けられた「取り付け穴の位置」を確認しよう。この穴に⑤フューエルパイプAと⑥フューエルパイプBを差し込むことになる。



9

フューエルパイプBを用意し、8で確認した左側の取り付け穴に差し込む。差し込むのは“先端に樹脂パーツが取り付けられていない側”だ。ピンセットを使い、慎重に作業しよう。



10

続いてフューエルパイプAを用意し、右側の取り付け穴に差し込む。フューエルパイプAには2本のパイプが取り付けられているが、2本のうち“長い方のパイプ”の“先端に樹脂パーツが取り付けられていない側”を差し込む。



11

9と10で差し込んだフューエルパイプA、Bが抜け落ちないように保持したまま、キャビンフロアを裏返す。次に、パーツ裏側に突き出した2本のフューエルパイプ先端をそろえ、写真のようにセロハンテープを軽く貼って仮留めする。なお、セロハンテープはパイプだけに貼り、キャビンフロアに付かないよう注意しよう。



12

キャビンフロアを表に戻し、再びフューエルパイプAに取り付けられた2カ所の樹脂パーツのうち、“2本のパイプが付けられている側”を、写真で示した取り付け穴にセットする。強く引っ張ると、パイプが外れたり切れたりしてしまうので、くれぐれも慎重に作業しよう。



13

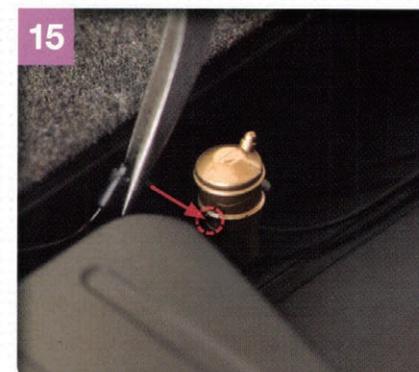
パイプ部分をpushさないように注意

樹脂パーツ先端を取り付け穴にセットしたら、指先で奥まで押し込む。このとき、パイプとの接合部を押すと破損の恐れがあるので、樹脂パーツ部分を押し込むようにしましょう。



14

フューエルパイプAの、もうひとつの樹脂パーツ先端をフューエルポンプ横の取り付け穴に差し込む(貫通はしない)。樹脂パーツが抜けやすくて、時間が経てばパイプが自然となじみ、抜けにくくなるので問題ない。



15

次に、フューエルパイプBの樹脂パーツ部先端をピンセットでつまみ、フューエルポンプ左側面の取り付け穴(14の反対側)に差し込む。



16

写真のように、ピンセットを使って樹脂パーツを軽く押してパイプの形状をなじませる。こちらも抜けやすいが、時間が経てば抜けにくくなる。



17

フューエルポンプを真っすぐに押し込む。このとき、フューエルポンプとキャビンフロアの間、フューエルパイプを挟まないよう注意すること。ピンセットを使い、パイプの状態を整えておくといいだろう。



18

キャビンフロアを裏返し、11で仮留めしたセロハンテープを写真のよう貼り付け、フューエルパイプの端を固定しよう。

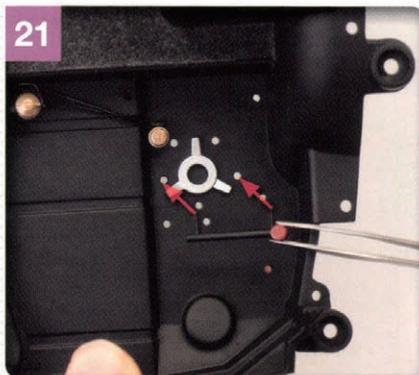


19

⑧フューエルフィルターを用意し、写真で示した取り付け穴にセットして押し込む。これ以降の作業はパーツの差し込みだが、取り付け穴を間違えやすい。写真と照らし合わせながら作業しよう。



⑨スペアタイヤナットを用意し、写真で示した2カ所の取り付け穴にセットして押し込む。なお、パーツには上下があるので、必ず写真の向きに合わせる。



⑩ハンマーを用意し、写真で示した2カ所の取り付け穴にセットして押し込む。なお、パーツには左右があるので、必ず写真の向きに合わせる。また、スペアタイヤナットとハンマーが抜け落ちやすく作業がしにくい場合は、パーツの取り付けピン部分に多用途接着剤を少量塗布し、接着しても構わない。



⑪固定ベルトを用意し、写真で示した3カ所の取り付け穴にセットする。



固定ベルトはラバー製のため、樹脂パーツのように押し込むことができない。3本の取り付けピン部分を順番に、少しずつ押し込んでいこう。どうしても押し込めないときは、取り付けピンの先端を少しだけぬらすのも効果的だ。



⑫スペアタイヤフレームを用意し、5カ所の取り付け穴に写真の向きでセットし、押し込む。無理に押し込むとパーツを傷めてしまうので、力加減に注意しよう。



アクセサリ類の取り付けが完了した状態。写真と見比べ、同じようになっているか確認しよう。



⑬で取り出したスペアタイヤを用意し、スペアタイヤフレームの上に乗せる。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。取り付けたアクセサリ類は、スペアタイヤなどによって見えなくなってしまうが、そうした部分まで作り込むことこそ、スケールモデルの醍醐味といえる。組み立てたパーツは次回の作業に備え、大切に保管しておこう。

33号

リヤコンパートメントを 取り付ける

今号では、キャビンフロア後方の左右に「リヤコンパートメント」を取り付ける。このパーツは本来、ボディの内側に一体となって形成されるものだが、本モデルでは組み立てやすさを重視し、キャビンフロア側に取り付けるスタイルとした。パーツのはめ込みが少し難しいので、慎重に取り付け作業を行おう。

今号のパーツ



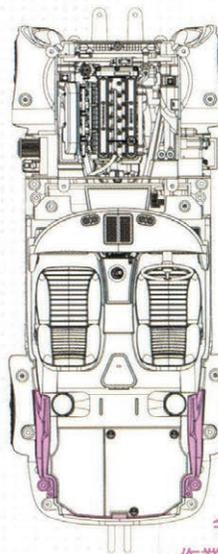
- ①リヤコンパートメント左×1
- ②リヤコンパートメント右×1
- ③バックドアスタンド×1
- ④ビス(Eタイプ)×2(※1本は予備)

使用する道具

・ロングタイプドライバー
(9号で提供したもの)

用意するもの

・キャビンフロア(32号で組み立てたもの)
・ビス(Hタイプ)×2(30号で提供し、使用していない残りの2本)



今号で
作業する箇所



1 ビス穴とリング部分を合わせておく

③バックドアスタンドを用意し、32号で組み立てたキャビンフロア後方の、写真で示した位置にセットする。このとき、バックドアスタンドは写真の向きに合わせる。



2

④ビス(Eタイプ)を、9号で提供したロングタイプドライバーの先端にセットし、バックドアスタンドのリング部分を通してキャビンフロアのビス穴にねじ込む。ビスが穴に対して垂直になるよう、ビスの角度に注意しよう。なお、次で微調整をするので完全に締め込まないように。



3

バックドアスタンドがスムーズに動くことを確認する。指先で持ち上げたとき、「軽い抵抗感があるくらい」になるよう、ビスの締め込み加減を調整しよう。



次に①リヤコンパートメント左を用意し、写真で示した取り付け穴にキャビンフロアの“外側から”セットする。



リヤコンパートメント左の上部を外側に少し開いた状態でセットし、2本のピンを取り付け穴に少しずつ押し込む。そのまま押し込むと、パーツ前端がキャビンフロアに当たってしまい、前寄りのピンが取り付け穴から外れてしまうので、パーツを内側に押し込みつつ、上からも押し込んでいく。パーツ前端がキャビンフロアのくぼみ部分にはまればOKだ。ただし、無理に押し込もうとするとパーツを傷める恐れがあるので、試しながら丁寧に作業を進めよう。



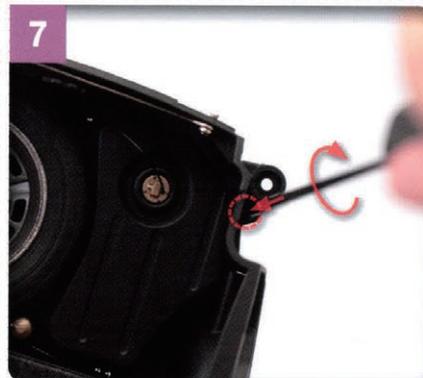
②リヤコンパートメント右を用意し、写真で示した取り付け穴にキャビンフロアの“外側から”セットする。



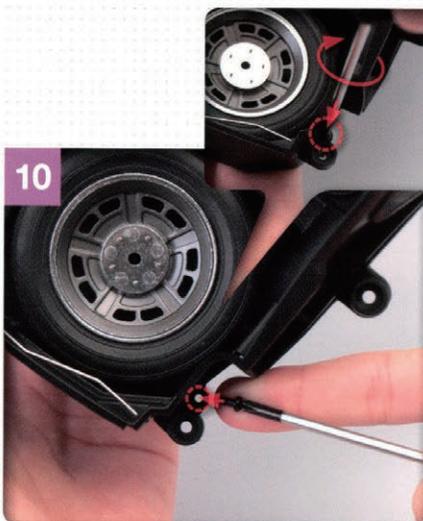
リヤコンパートメント右の上部を外側に少し開いた状態でセットし、⑤と同じ要領で2本のピンを取り付け穴に少しずつ押し込む。パーツ前端がキャビンフロアのくぼみ部分にはまればOKだ。ただし、無理に押し込もうとするとパーツを傷める恐れがあるので、試しながら丁寧に作業を進めよう。



30号で提供したHタイプのビスを1本用意し、写真で示したビス穴にセットする。



ロングタイプドライバーを使い、Hタイプのビスをねじ込んで、リヤコンパートメント左を固定する。



30号で提供したHタイプの残りのビスを用意し、写真で示したビス穴にセットする。ロングタイプドライバーを使ってビスをねじ込んで、リヤコンパートメント右を固定する。

今号の完成



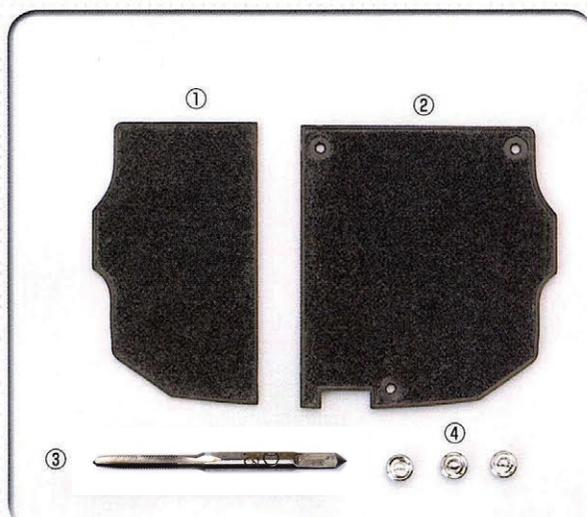
これで今回の作業は完了だ。ポイントは左右のリヤコンパートメントを取り付ける作業だろう。樹脂成形パーツの弾性を利用した構造になっているので、少しずつ、状態を確認しながらゆっくりと押し込むようにしよう。なお、取り付けられたリヤコンパートメントは、上部が内側に向かって傾いた状態となる。これによってボディ内面にフィットし、一体成形されたダイキャスト製ボディの搭載作業が容易になる。

34号

リヤコンパートメントカバーを取り付ける

今号では、33号までに組み立てたキャビンフロア後方のリヤコンパートメントに「リヤコンパートメントカバー」を取り付ける。既に組み付けたフューエルタンクやスペアタイヤなどが隠れることになるが、カバーは実車同様に脱着することができるので、組み立て後も内部の機構を見て楽しむことができる。

今号のパーツ



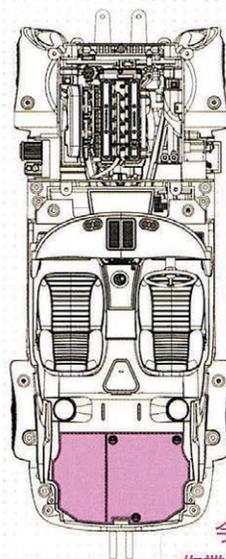
- ①リヤコンパートメントカバー左×1
- ②リヤコンパートメントカバー右×1
- ③2.3mm中タップ×1
- ④コンパートメントカバーノブ×3
- ⑤タップホルダー×1

使用する道具

・ピンセット(2号で提供したもの)

用意するもの

・キャビンフロア(33号で組み立てたもの)



今号で
作業する箇所



②リヤコンパートメントカバー右と④コンパートメントカバーノブを用意し、ノブの裏面から突き出したピンを写真で示した取り付け穴にセットする。



コンパートメントカバーノブを真すぐに押し込む(ノブの向きに決まりはないので、好みの向きに設定しよう)。このとき、リヤコンパートメントカバー右に施した植毛が、ノブを押し込むくぼみ部分の内側に入り込んでいると、作業に支障があるので、事前にチェックしておこう。もし植毛が入り込んでいる場合は、2号で提供したピンセットを使って取り除いておこう。



①、②と同じ要領で、残り2個のコンパートメントカバーノブを、リヤコンパートメントカバー右に取り付ける。



続いて、33号で組み立てたキャビンフロアを用意し、後方のリヤコンパートメントの右側（写真では左側になる）にセットしてかぶせる。スペアタイヤを取り出していた場合は、事前に搭載してから作業しよう。



次に、①リヤコンパートメントカバー左を用意し、写真で示した位置（フューエルタンクの上）にセットしてかぶせる。



リヤコンパートメントを真上から見た状態。左右のコンパートメントカバーが平らな状態で収まっていればOKだ。もし平らに収まらない場合は、本誌31、32号で取り付けした「左右のコンパートメントカバーの内部に組み込まれるパーツ（スペアタイヤやフューエルタンク、フューエルセンダージェージ、フューエルポンプなど）」が、正しい状態で組み立てられ、収まっているかを再確認しよう。



今号の完成

これで今回の作業は完了だ。リヤコンパートメントカバーが備わったことで、キャビンフロアの組み立て作業は一段落したことになる。今回取り付けしたカバーで覆ってはいれるものの、コンパートメント内部に組み込んだパーツは外れやすいので、十分に注意して保管しよう。

2.3mm中タップの使い方

今号では「2.3mm中タップ」を提供する。この工具は、金属製パーツに設けられた「直径2.3mmのビス／皿ビス」を取り付けるビス穴の内側に「タップを立てるための工具」だ。使用するときには、提供したタップホルダーに取り付け、ビス穴に対して“垂直”に立て、軽く押し込みながらゆっくりと右に回す。その後、左方向にゆっくりと回して抜き取れば、ビス穴の内側にきれいなタップを立てることができる。具体的な使用個所については、今後の誌面で紹介していく。



今号で提供した中タップ。正式な仕様は「ねじ径=2.3M／ピッチ=0.4・並目ピッチ」だ。この工具は硬度が高い半面、曲げに対する強度が低いので、使用法を誤ると容易に折れてしまうので注意が必要だ。



提供したタップホルダーの、写真で示した穴に差し込んで使用する。



中タップをセットした状態。多少ガタガタするのは、作業中の中タップに“曲げ方向”の力が加わらないようにするためなので問題は無い。



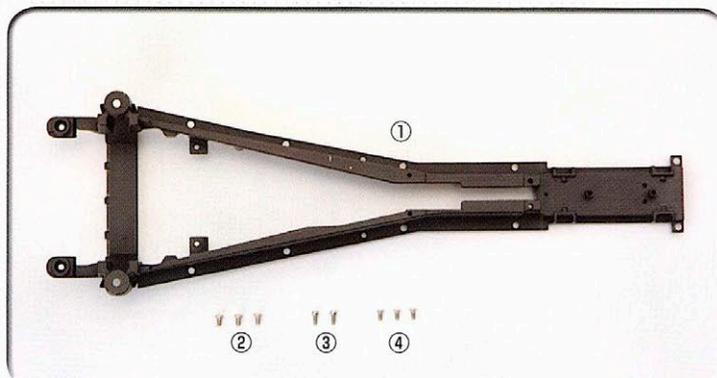
中タップ先端のクローズアップ。細かく掘られた溝の側面が、ビス穴の内側を削るようになっている。

35号

シャシーフレームの準備をする

今号では、モデルの骨格ともいべき「シャシーフレームA」を提供する。このパーツは、次号で提供予定の「シャシーフレームB」と連結し、ボディやサスペンション、エンジンを支える土台となる。今号の作業は“下準備”となるが、28号で組み立てた「デフケース」の状態によって手順が異なるので注意しよう。

今号のパーツ



- ① シャシーフレームA×1
- ② ビス(Dタイプ)×3(※1本は予備)
- ③ ビス(Lタイプ)×2(※1本は予備)
- ④ ビス(Mタイプ)×3(※1本は予備)

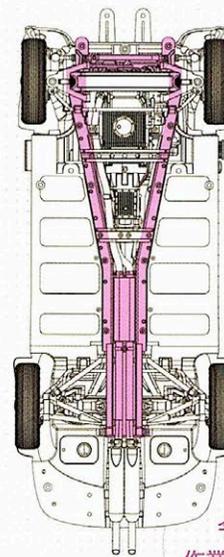
※②、③、④は今回使用しないので、大切に保管しておこう。

使用する道具

- ・タップホルダー(34号で提供したもの)
- ・2.3mm中タップ(34号で提供したもの)

用意するもの

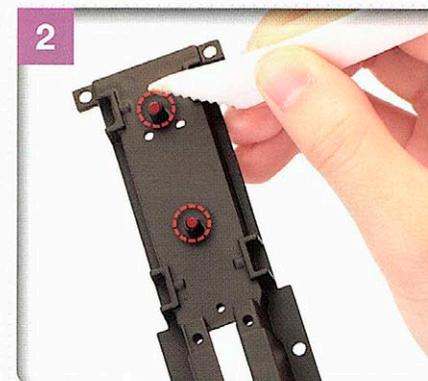
- ・デフケース(28号で組み立てたもの)
- ・多用途接着剤(「セメダイン スーパー-X-G」を推奨)



今号で作業する箇所



28号で組み立てたデフケースを用意し、はめ込んだパーツが“簡単に外れてしまうかどうか”を確認する。その状態によって手順が異なるので注意が必要だ。まず簡単に外れなければ次の手順(2)へ進もう。また、簡単に外れてしまう場合は、右ページの【デフケースのパーツが簡単に外れてしまう場合】を参照し、手順に従って作業しよう。



デフケースのパーツがしっかりとめ込まれていることが確認できたら、①シャシーフレームAを用意し、写真で示したポスト部分の先端に、多用途接着剤を少量塗布する。ポストにはビス穴が設けられているので、その上に少しだけ盛り上げる感じで塗布する。必要以上に付けると、はみ出した接着剤がパーツを汚してしまうので注意しよう。

3



しっかりとパーツ同士をはめ込んだデフケースを写真の向きで持ち、取り付け穴とシャシーフレームのポスト部を合わせてはめ込む。

今号の完成

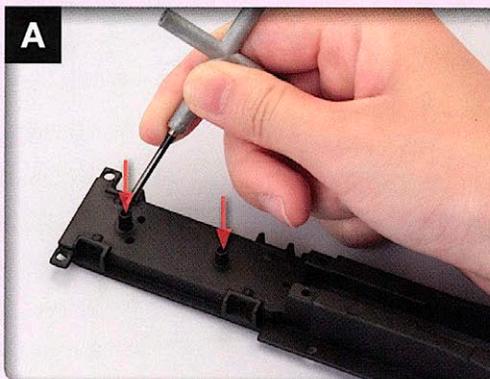


これで今回の作業は完了だ。デフケースをシャシーフレームに接着しているが、デフケースはシャシーフレームAと、次号で提供予定のシャシーフレームBによって挟まれることで固定される。そのため、デフケースのパーツが外れにくいのであるが、このようにしっかりととはめ込んだ状態のまま接着しても問題はない。組み立てたパーツは次回の作業に備え、大切に保管しておこう。

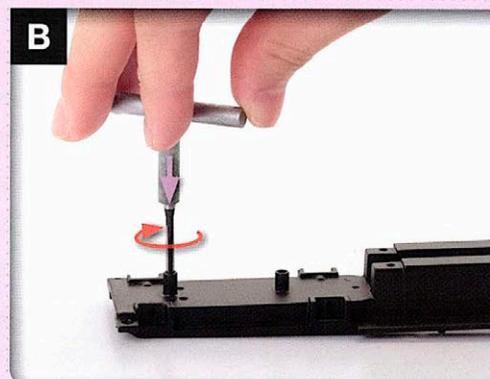
※34号で提供した2.3mm中タップを取り付けるには、同じく34号で提供したタップホルダーを使用してタップ加工を行います。組み立てガイドのクロスレンチに取り付ける画像と異なりますが、ご了承ください。

【デフケースのパーツが簡単に外れてしまう場合】

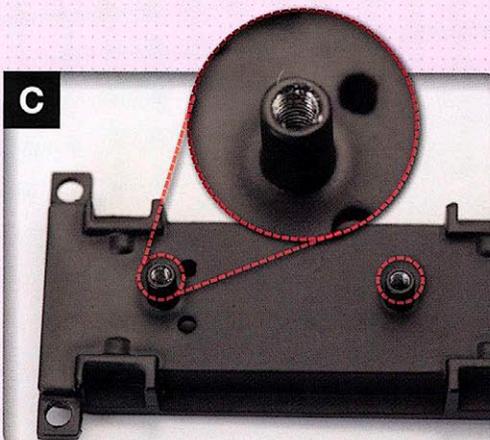
デフケースのパーツが簡単に外れてしまう場合は、「デフケースA」と「デフケース&プロペラシャフト」に分けた状態で保管し、デフケース取り付けの前にシャシーフレームにタップを立てる作業を行う。



34号で提供したタップホルダーに、2.3mm中タップを差し込み、写真で示したシャシーフレームのポスト部のビス穴へ“垂直”にセットする。



2.3mm中タップを垂直に立てたまま軽く押しつけ、クロスレンチをゆっくりと右方向に1回転半だけ回す。その後、クロスレンチを左方向にゆっくりと回し、中タップをビス穴から抜き取る。もう片方のポスト部も、同じ要領でタップを立てておこう。



タップが立てられたシャシーフレーム・ポスト部のビス穴。ビス穴の内側には金属の削りかすが残っているため、シャシーフレームを裏返し、軽くたたいて落としておく。

完成



デフケースのパーツが簡単に外れてしまう場合は、タップを立てるところまでで今回の作業は終了。次号で取り付け作業を行うので、組み立てたパーツは大切に保管しておこう。